

学校教育目標

生きる力を育む学校づくり
～野を駆ける風のように～

総合的な学校関係者評価

・オープンスクールや登下校、地域での児童の様子から、学校の取組の成果を学校内外で感じることができた。
・長期のわたる休校後の学校運営は全てのことが手探りで先生方のご苦勞は大変なものであったと思う。保護者アンケートで学校に対する評価がほぼ上向きの結果であるのを見ると、苦難の中でも先生方の奮闘がしっかり伝わっていると思う。
・学校運営協議会は、今年度のような地域を巻き込んだ形で今後も進めてほしい。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後の改善について	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B	・全教職員が、学校教育目標達成に向け、教育活動に取り組むことができている。 ・学校運営協議会を通して、様々な方面へ情報の発信ができたと考えられる。 ・今後も保護者や地域の方々から本校教育活動への理解を得るため、HPや学校だよりを活用し積極的に情報を発信する。 ・学級づくりはもちろん、縦割り活動を生かした異年齢での集団づくりにも力を入れ、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。 ・定期的にアンケートを実施し、アンケート結果や生活状況をもとに、毎月の生活指導委員会で課題解決策を検討し、指導に当たっている。 ・今後も児童の様子について、アンテナを高く、保護者と連絡を密に協力しながら指導に当たっていく。 ・児童への安全指導の徹底や実践的な訓練に取り組むことができた。 ・今後は、PTAの方々との協力を得ながら、交通面や防犯面を考えた通学路点検を行いたい。また、あらゆる事態を想定してマニュアルなども整備するとともに職員だけでなく保護者、地域の方々にも周知を図る必要がある。 ・UD（一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導の工夫）について事例を交えた研修を行うことができた。 ・今後も児童を共通理解した上で家庭と連携し指導していきたい。 ・地域の外部講師を招き、各学年の発達段階に応じた、ふるさとの歴史や文化を学ぶ取組を行うことができた。 ・今後はさらに、保護者や地域の方に趣旨を周知し、一体となった取組につなげたい。	・学校評価も保護者アンケートも、評価は平均点以上でこのまま継続すればいいと思う。 ・長期のわたる休校後の学校運営は全てのことが手探りで先生方のご苦勞は大変なものであったと思う。保護者アンケートで学校に対する評価がほぼ上向きの結果であるのを見ると、苦難の中でも先生方の奮闘がしっかり伝わっていると思う。 ・教育方針や子どもたちの様子を伝えている項目で保護者の評価が高いのは良いことだと思う。 ・子どもたちのマスク着用が徹底できていた。我々が注意されるほどであった。 ・危機管理の所で、今後も職員間の意識向上を図っていただきたい。 ・コロナ渦での危機管理・対応について学校からの説明を受けたかった。 ・子どもたちのために、今何がベストなのかを懸命に模索している先生方の姿勢こそが最大の教育ではないかと感じている。 ・今年度、学校運営協議会では、地域の方に来ていただき生野の歴史を知る機会を設けるなど大変有意義な運営ができたように感じる。今後も、このような運営をしていただきたいと思います。ただ、話を聞くだけでなく話し合いにも時間を取り、さらに委員間の情報交換や意思疎通を図っていくことも大切であると感じた。
		オープンスクール（学校公開）など住民参加の教育活動の推進	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A		
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A		
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B		
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B		
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A		
あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A			
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	A	・全教職員が、深い児童理解により一人一人の状態を把握した指導やICTを活用したより分かりやすい指導が行える研修を進めることができた。 ・教育活動全体を通して、児童の主体性やコミュニケーション能力を高める指導方法の改善に取り組むことができた。 ・どの学年も年間計画通りに指導できた。子どもたちへのアンケートでも「学校が楽しい」との回答率も高く、取組を継続して行っていきたい。 ・今後も、特別の教科道德の指導方法・評価方法の工夫について引き続き研修を行っていく。 ・今後も、教科等の横断的指導を行うためのカリキュラム作りに取り組んでいく。 ・発達段階に応じた人権教育の取組を行うことができた。 ・自然学校や環境体験学習だけでなく、各学年においても特色のある活動を行うことができた。 ・今後は、福祉施設の訪問などにも取り組んでいきたい。 ・今後も、キャリア教育の視点で各教科などの指導内容・目標を見直ししていく。	・児童が自分で生活リズムを整えるきっかけとなるよう、学期初めの1週間などを期間を決め、起床時刻、学習時間やゲームの時間などをチェックすることは、大変よい取組だと思います。今後も、継続してほしいと考えます。 ・家庭学習の時間も学力には大きく関係していると思う。アンケート調査などを行い生活の様子を把握することも大切であると思う。 ・基礎基本を身に付けることの第一歩として、あいさつを大切にするのは、どうだろうか。まず、家庭でのしつけが一番だとは思っているのだが。	
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	A			
	道徳教育	A			
	総合的な学習の時間	A			
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B		
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A		
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B		
その他					